

表舞台より裏方が儲かる 簡易内線で企業提案にも旨み

ここまで、行政施策と参入事業者の現状を見てきた。総務省側の050番号に関する審査は1カ月ほどかかるといわれることから、早ければ10月末にも新しい番号体系を使ったサービスが登場してくる。パート3では、050サービスの具体像を追ってみる。

050同士が繋がらない

まず、スタート当初の050サービスで押さえておかなければならない点がある。しばらくは、IP電話発・一般電話着および加入者間発着信という従来からあるサービスと同じ形態にとどまることだ。

一般電話からIP電話への着信を可能にするためには、NTT東西の交換機に手を加える必要がある。050番号を識別し各事業者に振り分けられるようプログラムを改修しなければならない。事業者間の接続料金やその精算方法、通話料金設定権、改修・接続工事費用の分担等々を調整

し、課金の仕組みを整備する必要もある。

NTT東西側は、これらの作業に半年から1年かかるという。IP電話事業者としてはもどかしい限りだが、それでも来年春から秋頃までには、一般電話からIP電話につながるようになる。

むしろ、業界関係者の多くが今後の050市場拡大において問題視しているのは、IP網同士の相互接続だ。一般電話との発着信が叶っても、050同士の相互通話については同一のIP網内でしか実現できない。つまり、IP網の相互接続がなされない限り、異なるサービスの加入者間は050番号での発着信は行えないことになる。

解決策の1つとしては、IP網の間に公衆網を挟んだネットワーク形態が考えられるが、IPによる料金メリットや品質の面を考えると理想的な形とはいえない。もちろん、事業者が個々にIP網の接続を行っていけば実

現できないことではないが、広くあまねく使える050番号にするには手間も時間もかかり過ぎる。そうすると、やはりIP網同士を相互接続するための統一の仕様を決めていく必要が出てくる。

ポイントはいくつかある。まず、H.323、MGCP、SIPといった異なるプロトコルのネットワークを接続する際の基準を整えていかなければならない。

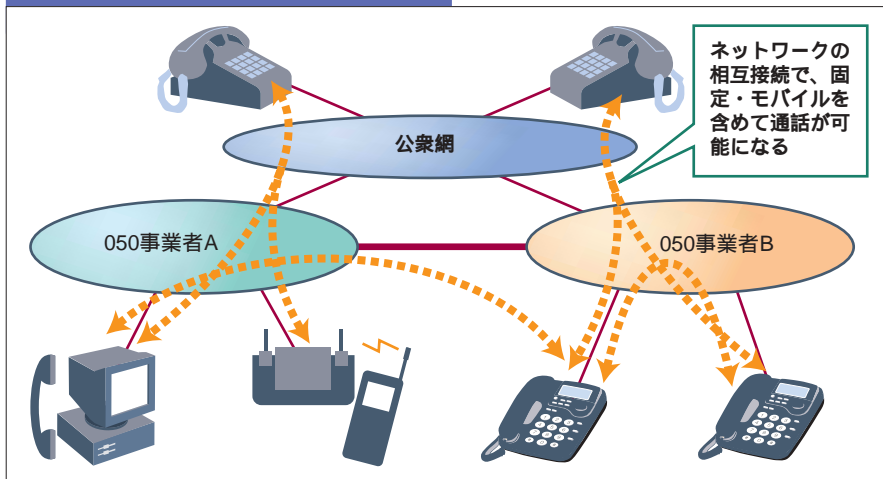
次に、アドレス解決をどうするか。050はあくまで既存の電話番号体系と整合性を取るためのもので、IP網内でそのまま使われるわけではないからだ。具体的な解決策として俎上に上っているのが、国際的に標準化が進められている「ENUM」。国際標準の電気通信番号とIPアドレスの対応付けを、インターネットで使われているDNS(Domain Name System)によって行おうというもの。これを使えば、050番号をIP網内の共通のアドレスとして相互に受け渡しできるようになる。

IP網を相互接続した場合の品質評価も規定する必要がある。これについては、TTCが品質測定の標準に盛り込むべく検討しており、今年度末には統一規格が定まるものと思われる。

事業者の相互乗り入れに貢献

実は、こうしたネットワーク接続に関わる部分で、大きなビジネスチャン

図 050サービスの利用シーン



特集 ① IP電話
“050”ビジネスの
すべて